平成30年度　学校経営計画に対する評価計画書

重点目標		具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の取組
1	書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力および批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際、ICT機器はもとよりディスカッションや反転学習などアクティブ・ラーニングの手法を活用する。	① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するなど、授業の工夫を図っている。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションにより学習効果が高まる（a 強く ＋ b やや）と感じている生徒が、 Ａ 80％以上 Ｂ 70％以上 Ｃ 60％以上 Ｄ 60％未満	感じている 20．0％　やや感じている 48．2％ あまり感じていない 24．3％ 感じていない 5．9％ 感じている＋やや感じている＝68．2％　C評価 （昨年度） 感じている 16．8％　やや感じている 48．2％　あまり感じていない26．1％　感じていない6．4％ 感じている＋やや感じている＝65．0％　C評価	「感じている」＋「やや感じている」が昨年度より3．2ポイント向上した。なおアクティブ・ラーニングやディスカッションについて、その内容面や改善の余地がある。日頃から授業成果共有を行い、「思考する授業」を実践し、生徒が主体的能動的に取り組む授業を増やしていきたい。
		② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	教務課 各教科	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表（発言）する場面を（a多く＋b時々）設定している割合が Ａ 95％以上 Ｂ 90％以上 Ｃ 80％以上 Ｄ 80％未満	a多く設定56．6％　b時々設定37．7％　cあまり5．7％　d全く0．0％ a＋b=94．3％ 昨年度 a　40．7％　b　57．4％　c　1．9％　d　0．0％ a＋b＝98．1％	A評価＋B評価が94．3％と昨年度より3．8ポイント下落したが、A評価（多く設定）について見れば15．9ポイント上昇している。この取り組みを一層拡充することで生徒の言語活動の活性化を図るとともにさらに生徒自ら主体的能動的な力がついたと実感できるような授業へと結び付けていきたい。
		③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 Ａ 80％以上 Ｂ 70％以上 Ｃ 60％以上 Ｄ 60％未満	学習時間調査＊（　）内は前年度中間評価 【1年】 35．7％(48．8％)　D評価 【2年】 42．0％(68．8％)　D評価	前年度同時期に比べ、1、2年生ともに下回った。 現3年生は1年時より60％以上を維持している。今後とも担任、授業担当者、部活動顧問がそれぞれの立場で家庭学習への意識付けを継続的に指導していくとともに、適切な課題設定が必要である。
		④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が Ａ 80％以上 Ｂ 70％以上 Ｃ 60％以上 Ｄ 60％未満	１年：Ｃ評価（６７．５％） ２年：Ｂ評価（７７．６％） ３年：Ｂ評価（７４．１％）	【１年】7月の時点では、中学校での学習状況の延長線のような試験前だけの学習で対応していた生徒が多く、日々の朝学習の大切さに気付けない生徒が多くいたことは事実である。それが個人面談等で自己の進路を意識して高校生活を過ごさなければならないことを知り、自分に必要な力を身につけようと頑張る生徒が徐々にではあるが増えている。今後そういう生徒をさらに増やし、学年全体で取り組んでいこうという雰囲気作りが必要である。 【２年】昨年度から朝学習に積極的に取り組んだと実感している生徒が学年の７９．５％おり、、朝学習に真摯に取り組んでいる学年である。朝学習をひとつの軸として学習の良い習慣ができている。朝の小テストだけにとどまらず、「再テスト」や「確認テスト」を行うことで、学力の定着を図っている。さらに、声掛け等を通して、事前に十分に取り組む生徒をより増やしたい。 【３年】各教科、授業とシンクロさせた小テストや課題を工夫し、その場限りの学習にならない内容を用意している。後期は受験が近づいてくるので、コースに応じてより必要な内容を精選して提供していきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の取組
2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	進路指導課 学年 教科	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 60%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 80人以上　B 60人以上 C 40人以上　D 40人未満	【１年】 ９０．１％　Ａ評価 【２年】 ８９．５％　Ｂ評価 【３年】 ８３名　Ａ評価	1年は1学期からの文理選択指導や夏期補習中の文理選択予備調査や早期の進路指導を手厚く行い、進路意識の涵養と学習への意識付けを行っており、集計上初めて90%を上回った。 2年は1年次より継続して生徒の進路意識を高め、クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、高い志望を掲げ学習に取り組ませたことでB評価と高い数値となった。 3年は金沢大学以上を目標とする生徒の割合が昨年度の3年生の25%をさらに上回る27%となり、高い志望を叶えた先輩たちの存在や継続した国公立を目標とする指導の成果であると考える。
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	1,2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	7月進研模試による　（ ）内は昨年同時期 【1年】 国語47．7（49．0）　数学48．8（49．6） 英語45．2（45．9） 【2年】 国語49．0（48．0）　数学50．0（46．7） 英語47．4（46．8）	7月進研模試の3教科総合全校偏差値は、1年が46．8、2年が49．2であり、1年は昨年度を下回るも一昨年度を上回り、直近3カ年の中間値であった。特に2年は昨年度及び1年前の同時期を上回り、上位者が多かった2年前の卒業生と比肩する数値に伸長してきている。評価は11月の進研模試で判断する。
	③		1,2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	7月進研模試による全国偏差値54以上の生徒 （ ）内は昨年度同時期 【1年】　23名（28） 【2年】　60名（40）	7月進研の結果、全国偏差値54以上の生徒は1年では23名、2年では60名であった。2年は平均偏差値と同様に前年度を大きく上回り、1年においては判定値の数値は低下したものの、最上位層となる偏差値60の数値は昨年度と同数である。 評価は11月の進研模試で判断する。
	④		金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満		
			国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上		
			難関私立大学合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満		

重点目標		具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の取組
3	部活動や生徒会活動の活性化とともに地域行事への積極的参加に努め、チャレンジ精神の涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。	総務課	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が4回以上の割合が Ａ　70％以上 Ｂ　60％以上 Ｃ　50％以上 Ｄ　50％未満	Ｄ：４回以上来校した保護者の割合は10.6%である。３回以上来校した保護者の割合は31.8%で、昨年より５ポイントほど増加しているが、２回以下が過半数である。５月のＰＴＡ総会・学年別説明会に403名が来校。朝の挨拶運動は５月21日～７月19日まで30回実施し、予定の約70%が参加した。	挨拶運動参加率は70%と、昨年より参加率が10ポイント減っており、中には挨拶運動不要の意見もある。仕事の都合で欠席という場合もあり、7月の参加率は50%であった。一方で来校者数は増えており、総会来校者には昨年比100名以上多かった。特に1年・3年の保護者の関心が高い。一人あたり来校回数は減ったが、様々な形で保護者と学校が近い関係であることが望ましいので、後期も教育ウイークでの来校者増に取り組みたい。
		② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	ホームページ上の更新回数が Ａ　45回以上 Ｂ　35回以上 Ｃ　30回以上 Ｄ　30回未満	Ａ　45回以上 今春ホームページを一新、更新がいつでも、どの職員でもできるようになり、新しい情報が随時掲載されている。（９月現在で100回以上）そのおかげで、繰り返し見て楽しみにしてくれたり、役立ててくれる方が確実に増えている。一方、見たことがないという保護者が半数にのぼる。	保護者からの期待の声や、改善に役立つご意見をいただくので、それを取り入れて、さらに使いやすく良いものにして利用者を増やしたい。
		③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	生徒課	1,2年生の部活動の加入率が Ａ　90％以上 Ｂ　85％以上 Ｃ　83％以上 Ｄ　83％未満	4月当初の部活動加入率は1年生100%、2年生86%である。現在は、中途退部者がいるためポイントは下がっていると考えられる。	9月末に部活動加入状況の再調査を行い、各顧問と協力し、中途退部者防止策や生徒に対して他の部への再入部の支援体制を行う。
		④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催の内容を検討し、本校の外部に対する情報発信力を高める。	生徒課	1日目の来場者数が Ａ　900名以上 Ｂ　700名以上 Ｃ　500名以上 Ｄ　500名未満	1日目(9/1　土）814名 2日目(9/2　日）476名 前年度(29年度) 1日目(9/2　土）770名 2日目(9/3　日）439名	1日目はの増加は明倫祭に対する認知度や期待度が高まっていることと、PTA役員の協力体制が確立していることが結果と考えられる。 来年度もより良きものとするように、今年度の内容検討・吟味を行う。
		⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示、公立図書館からの本の借り受けなど地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神の涵養を図る。	図書課	地域と連携した図書委員会活動の回数が Ａ　年間10回以上 Ｂ　年間8～9回 Ｃ　年間6～7回 Ｄ　年間6回未満	年度末に報告	現時点で、読み聞かせの活動やPOP制作など、4回の活動を行っているので、今後さらに活動を進めていきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の取組
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 60％未満	生徒アンケートでは、挨拶をできている（よく当てはまる）と答えた生徒は、71％であった。 B評価	保護者や全職員による登校指導や、有志による挨拶運動によりあいさつをする環境が生まれ、生徒は自然と挨拶を行うようになっている。後期も継続して行う。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことを通じて、規範意識を育成する。	生徒課 各学年	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	生徒アンケートでは、服装・容疑の規定を守っている（よく当てはまる）と答えた生徒は74％であった。 C評価	全職員の共通理解の下、挨拶を通じての一声運動を行っていく。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	交通ルール（自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない）を遵守している生徒が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	生徒アンケートでは、自転車マナー、法令を守っている（よく当てはまる）と答えた生徒は、77％であった。 C評価	規範意識自体は高いが、並列走行などに違反意識が薄い生徒が若干存在しているのが、県警の指導実績報告からうかがえる。細かな指導と啓発活動が急務である。
	④ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	ボランティア活動に、自発的に参加した生徒の割合が A 60％以上 B 50％以上 C 40％以上 D 40％未満	年度末に評価する。	秋以降は、ボランティアをより活発化させるための啓発、広告募集活動を行う。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	B 学校生活が楽しいと答える生徒の割合は、全体で82.7％であった。	1年、2年においては昨年のデータと大差ないが、3年では6ポイント減少している。3年生に対するメンタル面での支援のあり方を検討する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	生徒の変化に対して a（素早く対処し、解決に至った）、b（素早く察知し、対応することができた）の割合が A 95％以上 B 90％以上 C 80％以上 D 80％未満	B a ＋ b 92.7％	生徒の状況についての情報交換が密に行われるようになり、早期の対応が取られている。困難を抱えている生徒に対して、一人ひとりの状況に即した進路実現をめざして、支援を継続していく必要がある。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	保健環境課	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 65％以上 B 60％以上 C 50％以上 D 45％未満	年度末に報告	現時点で44％が受診しており、さらに受診を勧めていきたい。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介冊子の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 6.0冊以上 B 5.0冊以上 C 4.0冊以上 D 4.0冊未満	年度末に報告	現在ののべ貸し出し数は680冊と低迷している。これは、7月以降大規模改修工事により図書館の業務が大きく制約されていることの影響が大きい。工事終了後、様々な読書勧誘の取組を行って行きたい。

重点目標		具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の取組
5	教職員の資質や指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める	副校長 教頭	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が Ａ ２．０人未満 Ｂ ３．０人未満 Ｃ ４．０人未満 Ｄ ４．０人以上	4月 11人 5月 12人 6月 8人 7月 9人 8月 4人 Ｄ評価	授業や校務、部活動指導で、月80時間を超える先生方は相変わらず多い。100時間を超える先生も毎月平均3人あまりいるのが現状である。業務改善や先生方の意識改革で、過重な労働とならないようさらに取り組みを進めていきたい。